

## あとがき

翻訳作業は共同作業であった。『ヨハネス・アルトジウス—自然法的国家論の展開並びに法体系学説史研究』第1部の第1章と第2章では、笹川が翻訳原稿を用意しそれを本間信長（山梨大学教育人間科学部講師）・松原幸恵（山梨大学教育人間科学部講師）が批判的に点検した。その作業を経て笹川が確定原稿を作成した。第3章では、本間・松原がそれぞれ担当部分の翻訳原稿を用意し、別途笹川も翻訳原稿を用意し、それを突き合わせて、本間・松原がそれぞれ確定原稿を作成した。文法的に許される範囲で分かりやすく翻訳するように心がけた。このような共同作業によって、相互に批判を受けることがいかに苦しいものであり、しかし、その過程を通していつそうテキストの意味も明らかになることがより重要であるという体験も出来た。先を急がないこうした丹念な共同作業のために、個人の作業とは異なった労力と時間もかかったが、それにもまして得られたものの価値は高いと信じる。

ところで、「序文」ですでに触れたが、「訳注」は、教師がいわばゼミ指導のために用意した講義ノートに近い。熟練した研究者には不要に思われる箇所が多々あるであろうが、今回の翻訳作業があくまで教育の一環の中における共同作業であった事情をご理解いただきたい。そして、ギールケに導かれながらアルトジウスの『政治学』と『権利と裁判』のテキストを（部分的ではあるが）読み、また反対に、アルトジウスのそれらのテキストを（部分的ではあるが）読むことを通してギールケの分析の意味を理解することも出来た。実際痛快な思いでギールケの分析的確さとアルトジウスの政治・法思想の広がりと深さを学ぶことが出来た。なお、全体に、誤りについてはご指摘いただきたい。

（笹川と本間・松原の関係がわかりにくいので、二人の担当箇所を明示しておきたい。

本間：15-20頁，「2. 解説（2）」；15-16頁，訳注 2-4；18-19頁，注 5-8；23-24頁，注 12；90-96頁，第3章前半部分翻訳。

松原：78-82頁，訳注 126；113頁，訳注 174；113-116頁，訳注 176-179；101-117頁，第3章後半部分翻訳。

また、本間は Foreword の原稿を作成し、全員が点検し日本語の「序文」を定めた。

これらの作業を通して、私は参加者の忍耐と寛容にどんなに助けられたかはかりしれない。

そして、私事にわたるが、たまたまこの共同作業中に、妻深雪が事故でケガをし、私の研究活動が普段いかに彼女に支えられているかも理解出来た。幸い順調に回復し、従前に戻りつつあるのは神の恵みと思い感謝にたえない。

2002年9月

笹川紀勝